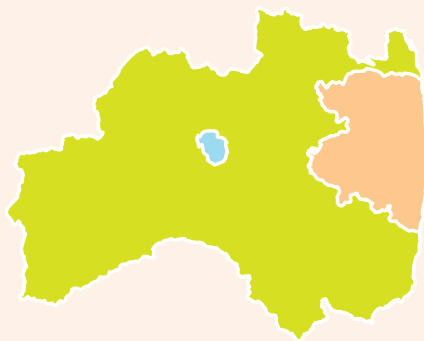


令和4年度
福島県教育復興推進事業

避難地域12市町村における
小中学校教育等推進事業
実践事例集



令和4年度

福島県教育復興推進事業

.....

避難地域12市町村における 小中学校教育等推進事業 実践事例集

公益財団法人

福島イノベーション・コースト構想推進機構

事 | 業 | 概 | 要

「福島県教育復興推進事業（避難地域12市町村における小中学校教育等推進事業）」は、避難地域12市町村*の小・中学校において、優れたカリキュラムを編成、実証するとともに、魅力ある学校づくりに必要な教職員研修等を行うために、2017年度より文部科学省の調査研究事業としてスタートしました。

各市町村の小・中学校では、本事業の趣旨に基づき、ふるさとに根差した教育活動、児童生徒たち、保護者とともに「通いたい」、「通わせたい」と思えるような魅力的な学校づくりのための取組みを実施しています。



*避難地域12市町村

田村市、南相馬市、川俣町、広野町
楢葉町、富岡町、川内村、大熊町
双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村

避難地域12市町村の現状

市町村ごとに復興のフェーズが異なり、課題は多様である。そのため個々の実態に応じたきめ細やかな支援が必要である。

- 地元で学校を再開している市町村
…川俣町（山木屋）、田村市（都路）、南相馬市（小高）、飯舘村、浪江町、葛尾村、川内村、楢葉町、広野町、富岡町
- 避難先において学校教育を行っている市町村
…大熊町、双葉町

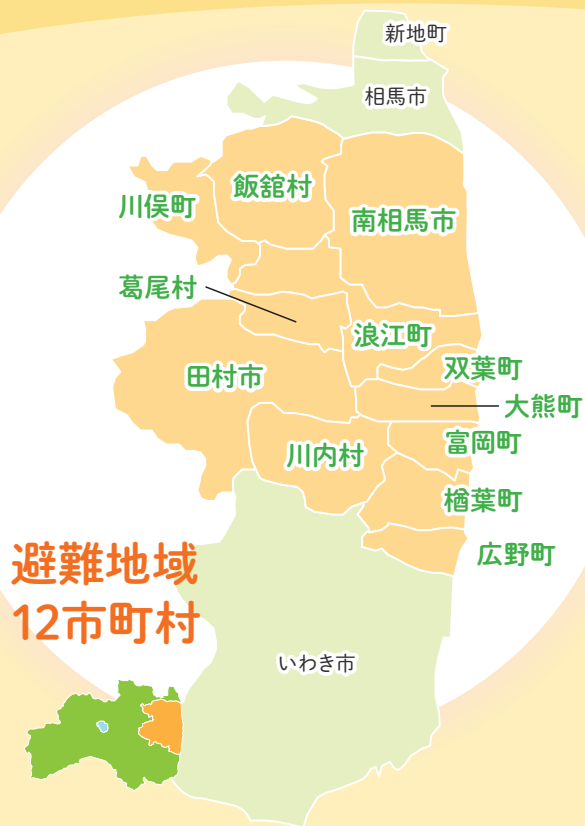
（令和5年3月現在）

>> 避難地域12市町村における小中学校教育等推進事業 <<

目指す姿

- 「通いたい」、「通わせたい」と思う魅力ある学校づくり
- 地域に“思いを馳せ”、地域を牽引する人材の育成
- 授業（個に応じた教育）の充実
… ICT活用授業、外国語活動の充実、国際交流事業、体力向上プロジェクト等
- キャリア教育（地域・探究活動等）の深化…地域特産品の商品開発、地域産業・文化学習、防災復興学習等
- 学習環境の整備・充実 ……図書館の書籍の充実、放課後学習会の実施
- 中山間地域における学校運営の在り方等の研究
- 地域と連携した「ふるさとに根ざした」魅力あるカリキュラムの構築

各 | 市 | 町 | 村 | に | お | け | る | 主 | な | 取 | 組



川俣町 P.9



●そば栽培学習 ●和太鼓講習

田村市 P.10



●キャリア学習の為の研修
●英語宿泊研修

南相馬市 P.12



●宿泊活動

飯舘村 P.14



●プログラミング教育
●いいいて学（ふるさと学習）

浪江町 P.16



●ふるさと体験学習 ●哲学対話
●地域交流活動 等

葛尾村 P.18



- 体力向上プロジェクト
- 学力向上プロジェクト

双葉町 P.19



- 体験活動
- 英語宿泊研修 等

大熊町 P.23



- 創造的演劇教育
- 本を生み出すワークショップ 等

富岡町 P.24



- 英語教育

川内村 P.26



- 他校との交流活動

檜葉町 P.27



- 販売体験活動
- 英語研修

広野町 P.28



- 特別支援教育の充実
- 国際理解・国際交流活動

研修会 P.30

避難地域12市町村における少人数教育に
対応した教授法に関する教員研修実施



各校の取組紹介

●川俣町	川俣町立山木屋中学校	P.9 ▶▶
●田村市	田村市立都路小学校	P.10 ▶▶
	田村市立都路中学校	P.11 ▶▶
●南相馬市	南相馬市立小高小学校	P.12 ▶▶
	南相馬市立小高中学校	P.13 ▶▶
●飯舘村	飯舘村立いいたて希望の里学園（前期課程）	P.14 ▶▶
	飯舘村立いいたて希望の里学園（後期課程）	P.15 ▶▶
●浪江町	浪江町立なみえ創成小学校	P.16 ▶▶
	浪江町立なみえ創成中学校	P.17 ▶▶
●葛尾村	葛尾村立葛尾小学校	P.18 ▶▶
	葛尾村立葛尾中学校	P.18 ▶▶
●双葉町	双葉町立双葉北小学校・双葉南小学校	P.19 ▶▶
	双葉町立双葉中学校	P.20 ▶▶
●大熊町	大熊町立学び舎ゆめの森	P.21 ▶▶
●富岡町	富岡町立富岡小学校	P.22 ▶▶
	富岡町立富岡中学校	P.23 ▶▶
●川内村	川内村立川内小中学園（前期課程）	P.24 ▶▶
●檜葉町	檜葉町立檜葉中学校	P.25 ▶▶
●広野町	広野町立広野小学校	P.27 ▶▶
	広野町立広野中学校	P.28 ▶▶
研修会レポート	避難地域12市町村における少人数教育に対応した教授法に関する教員研修	P.29 ▶▶

川俣町立山木屋中学校

取組内容

- 地域学習
 - *和太鼓講習(5月～10月) *森林活動(7月～1月) *そば栽培学習(7月～12月)
- 体力・運動能力向上
 - *体力向上(基礎体力作り、水泳、ダンス)(6月～11月)
 - *健康教育(柔道、スケート)(11月～2月)
- 防災復興学習(リプルンふくしま、東日本大震災原子力災害伝承館見学学習 8月)

代表的な
取組の
ご紹介

Ⅰ 地域探究活動「ふる里やまきや科」

山木屋地区の歴史、文化、特色等の理解を深め、山木屋地区に想いを馳せる心、復興を担う心を醸成する取組を行っている。

* 和太鼓講習(5月～9月)

昨年に引き続き、山木屋地区在住の和太鼓奏者遠藤元気氏を講師として、和太鼓の講習を行った。昨年度までの取組に加え、生徒たちの考案したリズムをもとに、遠藤元気氏とともに楽曲を作り、10月の校内文化祭で発表した。地域の伝統である山木屋太鼓に対する愛着が増し、地域を大切にする気持ちがより一層強まっている。



文化祭での和太鼓演奏

* そば栽培学習(7月～10月、1月)

山木屋在来そば(商標名「高原の宇宙(そら)」)を校地内の畑で栽培した。種まき・栽培・収穫・そば打ち・試食までの一連の流れを、地域の方々の協力の下に行うことで、地域との連携を図り、郷土を愛する心を育てることができた。また、そばを用いたレシピを考案するなどし、復興を担う心の醸成を図っている。



地域の方とそばの種まき作業

児童・生徒の声

- 僕にとって、和太鼓は地区の文化を知ることができる大切なものです。和太鼓を経験することができても良かったです。みんなで息を合わせて演奏することができました。
- みんなで育てて収穫したそば粉を使ってそば打ちが体験できてとても良かった。みんなの思いがこもっており、よりおいしく感じた。これからも、山木屋在来そばのことを多くの人に広めていきたいです。

教職員の声

- 昨年度よりも、生徒たちの和太鼓に対する思いが強まった。地域や伝統を大切にしようという気持ちの高まりを感じることができた。生徒8人全員で演奏することで、とても感動的な演奏となった。
- そばの栽培活動を通して、山木屋在来そばについて発信しようという気持ちを高めることができた。生徒たちはそばのアレンジメニューやグッズ販売など様々なアイデアを考えることができたので、今後、その実現に向けて取り組ませていきたい。

田村市立都路小学校

取 組 内 容

- キャリア学習のための全校学習旅行(12月)
- 科学実験講座(12月)

代表的な
取組の
ご紹介

Ⅰ キャリア学習のための全校学習旅行

テーマ「都路地域を担う都路っ子の育成」

- * 開催日：12月2日（金）
- * 場所：キッザニア東京
- * 対象：全校児童 41名（参加：34名）



実際に活動している様子



担当から説明を受けている様子



本番のために練習をしている様子

児童・生徒の声

- 初めて知った仕事もあったので、とても勉強になりました。
- 学校では学べないこともあったので、とても楽しかったです。他の学年の友だちと一緒に活動したこともよかったです。
- 仕事をするときに練習も真剣にしました。練習をしたり本当に仕事をしたりして、楽しいだけではなく、仕事の大変さも分かりました。

教職員の声

- キッザニア東京での体験を通して、多くの仕事に興味・関心をもつことができました。地域で同じような体験をすることは難しいため大変有意義な時間を過ごすことができました。
- 多くの活動場所があるため、児童が自分たちで体験場所を選ぶなど児童が主体的に活動することができました。
- 実際に体験する際に、練習をしっかりと行うなど、仕事に対する姿勢や難しさについても学ぶことができました。体験することでしか学べないこともありよかったです。

田村市立都路中学校

取 組 内 容

- 英語宿泊研修
 - *ブリティッシュ・ヒルズ英語研修事前指導(11月) *ブリティッシュ・ヒルズ英語研修(11月)
 - *ブリティッシュ・ヒルズ英語研修事後指導・まとめ(11月)
 - *英語科授業での実践(11月～3月)
 - *全校合同英語(アメリカのクリスマス・日本のお正月について)での実践(12月)
- 教職員研修
 - *学級活動研修会(7月) *理科・ICT講習会(8月)
 - *都路中授業研究会(12月) *ワークエンゲイジメント研修(通年)

代表的な 取組の ご紹介

ブリティッシュ・ヒルズにおいて英語研修を実施

講座内容「Survival English」「Volunteer English」
「テーブルマナー」「Exprore」

- * 開催日：11月24日(木)～
11月25日(金)1泊2日
- * 場所：ブリティッシュ・ヒルズ(天栄村)
- * 対象：第1・2学年生徒17名
引率教師：5名



会話に必要な英語を学ぶ様子



テーブルマナーを学ぶ様子



様々な場面での英語を学ぶ様子

児童・生徒の声

- 質問の仕方や単語の順番などを詳しく知ることができました。また、先生の話をよく聞いて、リスニングも前よりはできるようになったと思います。
- レッスンを通じて、まずは自分で考えてみることに、分からなかったら聞いて理解したり学んだりすることの重要性を改めて知ることができました。

教職員の声

- 日頃は、ALTの話す英語を聞くことはできても、複数のスピーカーが英語しか使わないでレッスンを行い、しかも日本語で助けてもらえない状況での学習は、生徒にとってとても貴重な経験であった。
- 宿泊を伴うこと、周囲に日本を感じさせる建物等もなく、より特別な雰囲気もあり、生徒はそういった状況の下、予想以上に柔軟に対応し、身につけていくことができた。

南相馬市立小高小学校

取 組 内 容

● 5年生 宿泊活動（6月21日～6月22日）

代表的な 取組の ご紹介

テーマ：「自然に親しむ心や敬愛の念を育てる。交友関係を深めるとともに、規律・協力・自主性、助け合いの精神を養う。体力の向上や他地域への理解を深める。」

具体的内容：マウンテンバイク乗車、磯遊び、ナイトハイク、野外フォトオリエンテーリング、アクアマリン見学

- * 実施日：6月21日（火）～6月22日（水）
- * 場 所：いわき海浜自然の家 アクアマリンふくしまほか
- * 参加人数：児童9人 引率者3人



児童・生徒の声

- 宿泊活動のテーマ「みんな協力 自ら行動」というテーマのとおり、お友達と協力しながら、例えばベッドメイキング等作業ができました。

教職員の声

- 宿泊活動を通して、不安を募らせる児童もいましたが、「1人じゃないから大丈夫！みんなで行くから大丈夫だよ」などと同じ班の仲間同志声をかけあいながら、行動を共にする姿がとてもステキでした。

南相馬市立小高中学校

取 組 内 容

- 2年生 学習旅行 (9/15)八木山動物園及びベニーランド方面

代表的な 取組の ご紹介

- (1) クラスでの集団生活や団体行動を通して、教師と生徒・生徒相互の触れ合いを一層深めるとともに、協力する心や責任感を育てる。
- (2) 見学箇所での研修を通して、規律ある行動、集団の在り方、公衆道徳、健康安全などについて体験的学習をさせる。

- * 実施日：9月15日（木）
- * 場所：仙台市 八木山動物園及びベニーランド
- * 参加人数：児童19人 引率者4人



児童・生徒の声

- ベニーランドではジェットコースターに乗ったり、八木山動物園では様々な動物を観察できて、グループ活動を楽しむことができた。

教職員の声

- 天気にも恵まれ、生徒たちは各グループごとに課題を解決しながら観察を楽しむことができたようでした。また、ベニーランドでは様々なアトラクションを楽しんだり昼食を楽しむなど、充実した学習旅行であったと感じています。

飯館村立いいたて希望の里学園（前期課程）

取 組 内 容

- ICT授業サポート教員研修(1月)
- 授業づくり教員研修(10月)
- プログラミング教育(2月)

代表的な
取組の
ご紹介

I 授業づくり教員研修

- * 開催日：10月14日（金）
- * 場 所：学校 多目的ホール
- * 対 象：第2学年6名、第5学年13名、教職員14名（前期課程）



講師による講演



授業の様子

児童・生徒の声

- ICTを使って収集した情報を整理・分析したことで、自分と友達の意見の共通点や、特に大事にしたい意見に気付くことができました。
- タブレットでみんなの意見を見て、改めて自分の発信したいことが明確になった。
- ホワイトボードで人ともものごとに分けながら話し合ったら、人について聞いてみたいことをきめることができました。

教職員の声

- 授業づくり教員研修を通して、ICTを活用する意図をより明確にもって、授業に臨むことができるようになった。
- 事前・事後と講師の先生にご指導をいただき、児童が対話を通して学び会うための手立てについて実践を積むことができた。
- 場の設定や思考ツールの活用から、教師のファシリテートする際の視点まで、教師が明確な意図をもって授業を計画することで、子どもたちが主体的に学習に取り組むことができるようになるのだと実感することができた。

飯舘村立いいたて希望の里学園（後期課程）

取 組 内 容

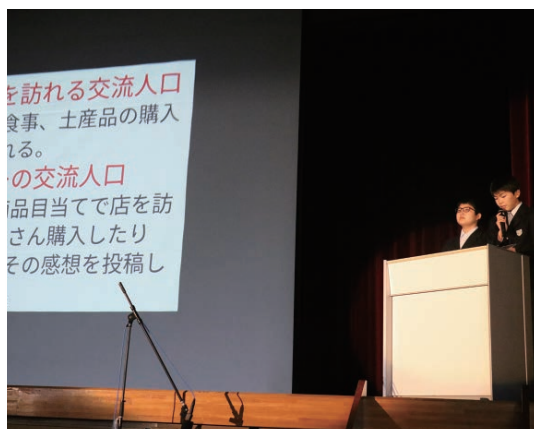
- いいたて学「校外学習・川内村」ワークショップ（8月）
- いいたて学「凍み餅パッケージづくり」ワークショップ（10月）
- いいたて学「各学年の発表」文化祭『いいたてっ子発表会「赤蜻祭」』（10月）

代表的な 取組の ご紹介

いいたて学『飯舘村の過去・現在・未来』についての発表

～ 文化祭『いいたてっ子発表会「赤蜻祭」』において ～

- * 開催日：10月29日（土）
- * 場所：学校 第一体育館
- * 対象：全校児童生徒 76名（後期課程 20名）



「飯舘村の未来」の発表



「飯舘村の過去」の発表

児童・生徒の声

- 飯舘村の過去について調べることで、飯舘村のよさに気付くことができた。村の人たちがよさをつないでいくために、今も頑張っている姿がすてきだと思った。
- 「ふるさとへの担い手の原動力」についてまとめることで、担い手の方々の願いやそれを達成しようとする姿勢のすばらしさに気付くことができた。
- 飯舘村にサイクリングコースを作る構想を通して、村のよさを一層知ることができた。また、飯舘村に天文台を建てて村の自然のすばらしさをアピールしたいと思った。

教職員の声

- 1年間の学びの集大成として、1つの映像作品にしたことで、改めて学年のテーマに近づけたという感想をもった。また、生徒の発表の姿からも、自分たちのまとめができたという「達成感」を感じた。
- 講師の先生からの助言をいただきながら授業を進めたことで、子ども一人一人が課題設定から解決の構想に至るまで、自分自身で調べた情報を根拠にしながら聞き手を納得させるプレゼンを作ることができた。

浪江町立なみえ創成小学校

取組内容

- 演劇ワークショップ(4月)
- 哲学対話(6月・2月)
- 体験学習(仙台、いわき方面)(6月)
- 地域交流活動:プランタ花苗・寄贈(10月)
- 成果配信:復興なみえ十日市(11月)ふるさと創造学サミット(12月)
- スキー体験学習(2月)
- ふるさと体験学習:なみえ焼きそば作り(5月)
- ふるさと体験学習:大堀相馬焼体験(6月)
- ふるさと体験学習:紅葉汁(10月)
- ふるさと体験学習:かぼちゃ饅頭(11月)

代表的な
取組の
ご紹介

ふるさと体験学習:大堀相馬焼体験

* 開催日:6月17日(金)

* 場所:学校

* 対象:全校生26名



大堀相馬焼体験の様子



焼き上がり後の大堀相馬焼



児童・生徒の声

- 毎年経験をしているので、段々と上手に作ることができるようになってきました。また、来年体験できるのが楽しみです。
- 半谷窯の先生から馬の絵を見せていただき、自分でも書いてみたいと思いました。
- 思い通りの形に仕上がりました。焼き上がりが楽しみです。



教職員の声

- 講師の先生をお招きし、大堀相馬焼の歴史や作り方を丁寧に教えていただきました。震災後の苦労や伝統工芸を学び、郷土愛が深まりました。
- 学年に合わせて絵付けや手びねりを体験し、大変貴重な学びとなりました。

浪江町立なみえ創成中学校

取 組 内 容

- 演劇ワークショップ(4月・1月) ● 哲学対話(6月・2月)
- ふるさと学習・大堀相馬焼体験(6月)
- 学習旅行(11月)
- 成果配信 文化的活動発表会(11月) ふるさと創造学サミット(12月)

代表的な 取組の ご紹介

I 哲学対話

～「自分のまちの好きなところ」～

- * 開催日:11月17日(木)
- * 場所:なみえ創成中学校 美術室
- * 対象:14名(オンライン参加 葛尾中学校3名)



オンラインで他校と交流する様子



問いについて深め合う様子

児童・生徒の声

- 哲学対話は答えが出なくても、毎回話し合いが盛り上がって楽しいです。一つの問いに対してこんなに盛り上がるのは哲学対話だけだと思います。次の哲学対話に向けて、日常生活の中でいろいろな疑問を探してみようと思います。
- 今まで、仲が良くなって友達になるのか、友達になって仲が良くなるのかを考えた事はありませんでした。他の人の意見を聞いて自分の考えが変わったり、自分の意見はそのままでも他の人の意見に納得したり、いろいろな体験ができました。

教職員の声

- 相手を言い負かすのではなく、いろいろな考えを認めることを重視する話し合いの中で、自己表現が苦手な生徒も安心して自分の考えを言っていました。
- 正解のない問いに向き合い、他の人たちと意見を交流したり、議論したりすることで、自分の考えを深めていく経験は、先の見えない社会の変化を乗り越えていく能力を育むことに繋がると思います。

葛尾村立葛尾小学校

取組内容

- 児童の体力向上のためのスイミング・スクール

代表的な
取組の
ご紹介

Ⅰ スイミングスクール受講

＊ 開催日：週1回（毎週火曜日）
16:00～18:00



児童・生徒の声

- 最初は水が怖かったけど、泳げる様になってうれしかった。
スクールでタイムを計って、前より早く泳げるようになったときうれしかった。

教職員の声

- 児童の体力向上にとって大変ありがたい取り組みです。学校の水泳の授業で見ても、児童の泳力が大変向上しているのが見て取れ、今後も継続していただきたいと思います。

葛尾村立葛尾中学校

取組内容

- 生徒の学力向上のための学習塾の実施

代表的な
取組の
ご紹介

Ⅰ 中学生を対象とした学習塾



児童・生徒の声

- 受験に向けて、放課後に学習塾で集中して勉強することができて役立っている。
- 授業でわからなかった事や、苦手な科目を集中して勉強できるので勉強がしやすい。

教職員の声

- 生徒数が少なく、学校外での学習環境が乏しいため、学校での学習を補完する機会があることは大変ありがたく、生徒のやる気の向上にも繋がっています。
- 学習塾は、特に受験生にとってはありがたく、役立っております。

双葉町立双葉北小学校・双葉南小学校

取 組 内 容

- 音楽鑑賞教室(6月)
- 絆づくり交流会(8月)
- 体験活動(9月)
- ふるさと創造学サミット(12月)

代表的な 取組の ご紹介

I 体験活動

- * 開催日：9月22日(木)
- * 場所：日立市(下学年)、会津若松市(上学年)
- * 対象：全校児童



下学年日立シビックセンター見学



下学年万華鏡づくり体験



上学年赤べこ絵付け体験



県立博物館清戸・横穴レプリカ



児童・生徒の声

- シビックセンターで万華鏡を作りました。鏡を3枚使って作ることが分かりました。今度は家族で行ってみたいです。
- 普段はできない赤べこの絵付けができ、貴重な体験をすることができた。
- 福島県立博物館では、社会で学習した歴史のことがいろいろ見ることができて復習にもなった。福島県の歴史を知ることができよかった。双葉町にある清戸迫古墳のレプリカを見たが、本物も見たいと思った。



教職員の声

- 体験プログラムや体験装置を通して、楽しみながら科学を学ぶことができた。内容的にも、下学年(1～3年生)に合ったものでよかった。
- シビックセンターでは、多くの体験活動(科学、理科、体育的要素が満載)ができてよかった。大人も十分楽しむことができた。
- 双葉南小学校を建設する際に発見された清戸迫横穴は、町民の間では清戸迫古墳と呼ばれ親しまれている。東日本大震災以降、本物を見ることができないため、博物館で見られるレプリカは大変貴重である。
- 赤べこ絵付け体験について、4年生の社会科の学習と関連してよかった。福島県の特徴がよく理解できた。

双葉町立双葉中学校

取組内容

- 中高交流会(8月)
- 宿泊研修(11月)
- ふるさと創造学サミット(12月)

代表的な
取組の
ご紹介

Ⅰ 宿泊研修

- * 開催日：11月9日（水）、10日（木）
- * 場所：天栄村
- * 対象：全校生徒



ブリティッシュヒルズレッスンの様子



修了式の様子

児童・生徒の声

- ブリティッシュヒルズに行ってみて学んだのは相手とのコミュニケーションについてです。相手に気持ちを伝えるのは日本語ではなく英語などで伝えるのはとても大変でしたが楽しく会話ができました。
- 英国文化にも日本と同様な「思いやりの心」に触れられたことに感激を覚えました。英語を通して相手と会話する楽しさや異文化交流ができて有意義な二日間でした。

教職員の声

- 最初に現地に到着した時は、生徒の中には「間違えたらどうしよう」、「英語で何ていえば良いのかな」といった態度が見られましたが、授業が進んでいくにつれて、発言すれば外国の先生がそれを受け取ってくれることがわかり、どんどん発言が増えていったことが印象的でした。先生方がとても親切で、明るく、授業内容もとても楽しくとても参考になりました。中学校の生徒全員で宿泊するのは初めてだったのですが、生徒たちの個性的な一面が見れたこともとても楽しく今後の指導にいかしていこうと思います。
- 今回の一泊二日の異文化体験交流活動を通して、生徒たちの普段見られない姿や自分の今後の授業の在り方等が学べ大変有意義な二日間でした。この経験をいかし、生徒・教職員でブラッシュアップした活動が展開できるよう頑張っていきたい。このような貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

大熊町立学び舎ゆめの森

取組内容

- 環境教育プロジェクト(ネイチャーラボ:通年)
- 未来デザインプロジェクト(空ラボ:8月)
- 未来デザインプロジェクト(エアパイロット室谷氏ワークショップ:9月)
- 魅力ある教育事業(本を生み出すワークショップ:9月～2月)
- 未来デザインプロジェクト(創造的演劇教育、リベラルアーツラボ:9月～2月)
- ふるさと創造学サミット(12月)
- 感謝を伝える会(2月)

代表的な
取組の
ご紹介

創造的演劇教育、リベラルアーツラボ

～テーマ「オリジナルの演劇を創ろう その3」～

- * 開催日:1月13日(金)
- * 場所:学校
- * 対象:義務教育学校生 7名(うち後期生徒2名)



創造的演劇教育の様子



本を生み出すワークショップの様子



児童・生徒の声

- 自分に厳しく取り組んでいる。演劇を通じ新たな自分に会えると考えている。
- 演劇の良さをしった、成果発表が楽しみである。



教職員の声

- 演劇教育を通じて相手とのこころのつながりについて学ぶことができた。

※本義務教育学校での取り組みは異年齢混合での学びを特徴とするため、授業風景もそのようなつくりとなっている。

富岡町立富岡小学校

取 組 内 容

- 児童生徒向け外国語指導講師による英語指導
 - ①中・高学年への外国語活動・外国語の授業
 - ②小学校低学年における異文化間コミュニケーション「英語であそぼう」の実施
 - ③小学校における国際理解「わくわく英語Day」の実施

代表的な
取組の
ご紹介① ② 児童への授業等
③わくわく英語Dayの実施

＊ ① ② 児童への授業等

低学年…年間9回 3・4年…年間各35時間 5・6年…年間各70回
〈5年生の外国語の例〉

- ・ALTと教師がモデルとなり、本時の主要 表現をロールプレイとして示す。
- ・英単語や英文の発音について、ALTが例示する。
- ・聞き取りや発音について児童に出題する。
- ・ALTの母国の文化（食べ物・気候・風習など）を紹介し、国際理解への関心を高める。



通常授業におけるALTの支援

＊ ③わくわく英語Dayの実施 年間5回

〈12月のわくわく英語Dayの例〉

「クリスマスを楽しもう」

- ・クリスマスに関する英単語（Christmas tree、cakeなど）の発音練習をする。
 - ・「Do you have～?」の表現を用い、持ち物（シール）を尋ねる。
 - ・英語で、じゃんけんをして、勝ったら相手からシールをもらう。
- ALTが児童の輪に入ること、活動がより活性化した。



海外におけるクリスマスを学ぶ

児童・生徒の声

- ALTに英語で話しかけることが、最初は難しいと思ったけれど、慣れてくると楽しくなった。自分の思いを伝えられることが嬉しい。
- わくわく英語Dayの時に、いろいろな学年の友達とゲームのように楽しめる。
- 外国のいろいろなことを教えてもらうのが楽しい。

教職員の声

- 外国語の授業で、毎時間ALTに入ってきていただけるのは貴重である。ぜひとも継続してほしい。
- ネイティブの発音に直接触れられることが素晴らしい。
- 外国の文化を詳しく教えてくれることがありがたい。教科書以外の知識を得られることは、子どもの成長につながる。

富岡町立富岡中学校

取 組 内 容

- 通常授業やパフォーマンステストにおけるALTの支援(通年)
- 実用英語技能検定受検の支援(通年)
- 小中における国際理解教育「わくわく英語DAY」の実施(10月・12月)
- ブリティッシュヒルズ研修(1泊2日) ● JICA職員による国際理解授業(12月)

代表的な
取組の
ご紹介

| 小中における国際理解教育「わくわく英語DAY」年2回

英語での問答を通して、ハロウィーンやクリスマス等の海外行事を学ぶ。

＊ 開催日：10月31日(月)

＊ 場所：学校内 ＊ 対称：全学年 22名



海外におけるハロウィーンを学ぶ



小中学生と一緒に楽しく活動

| ブリティッシュヒルズ研修(1泊2日)

グローバル化に対応できる、未来の富岡町を担う人材育成を目的に研修を行い、また、異文化を知るために英国式テーブルマナーを学ぶ。

＊ 開催日：2022年9月21・22日(水・木)

＊ 場所：ブリティッシュヒルズ(天栄村)

＊ 対称：2・3年生 14名



英語でコミュニケーション



英国式テーブルマナーを学ぶ



児童・生徒の声

- 小学生と一緒に楽しく活動でき、ハロウィーン等の行事の内容を知ることができました。
- ブリティッシュヒルズ研修では、学校とは違った環境、異国に行った感覚で英語でコミュニケーションを楽しむことができた。学校での授業の成果だと思う。



教職員の声

- ALTとの日々の授業が、生きた英語習得、異文化理解を深めることに繋がっている。今後も子どもたちに様々な経験を通してグローバル化に対応できる英語力、コミュニケーション力を育成していきたい。

川内村立川内小中学園（前期課程）

取 組 内 容

- 土別市との交流事業（9月）

代表的な
取組の
ご紹介

Ⅰ 土別小学校とオンライン交流会

～「お互いの市や村のいいところや学校について紹介」～

- ＊ 開催日：9月21日（水）
- ＊ 場所：川内小中学園
- ＊ 対象：5・6年生 14名



土別小学校の皆さんとのあいさつ



リモート交流授業でのやりとり



川内村についてのクイズ出題



川内村の紹介



児童・生徒の声

- 土別小学校の皆さんと交流活動をすることができて、来年度は土別市にぜひ行ってみたいと思いました。
- 土別小学校の皆さんのクイズを通して、土別市を理解することができました。
- 自分たちが住んでいる場所以外の人たちと学ぶ機会があまりないので、とても勉強になりました。



教職員の声

- 川内村を土別小学校の人たちによく知ってもらうために、児童一人一人が工夫したクイズを作成しました。相手に対して分かりやすいスライドを作成し、自己表現力を向上させることができました。Webでの交流でしたが、土別小学校の皆さんの温かい雰囲気が伝わってきました。子どもたちにとっても貴重な機会だったと思います。

檜葉町立檜葉中学校

取 組 内 容

- 地域活性化講座、起業家講座(4月)
- 商品開発ワークショップ(5月)
- 英語研修(8月)
- VMD講座(9月)
- 販売スクリプト講座、販売実践接客講座(10月)
- 文化祭での販売活動(10月)
- 日本橋ふくしま館「MIDETTE」での販売体験活動、都内見学学習(11月)
- ふるさと創造学サミット(12月)
- 決算報告(2月)

代表的な 取組の ご紹介

生徒が開発した商品を販売し、檜葉町の魅力を伝える ～「お互いの市や村のいいところや学校について紹介」～

- * 開催日:11月1日(火)
- * 場所:日本橋ふくしま館「MIDETTE」
- * 対象:全校生 45名



商品を販売している様子



地図を配布している様子



児童・生徒の声

- 東京で販売を行うことで、商品を買ってもらったことの大変さがわかりました。
- 自分達が開発した商品をすべて売ることができ、とてもうれしかったです。
- 販売の練習をたくさん頑張って、その成果を生かすことができました。



教職員の声

- 中学生が頑張っている姿を見て、地域の方から元気をいただいたと連絡がありました。生徒たちも自分たちの活動に自信を持つことができました。
- 知らない土地での販売活動は、生徒にとってとても大きな経験になりました。

代表的な
取組の
ご紹介

Ⅰ 英語を学び活用する力を育てる

- * 開催日：8月31日（水）、9月1日（木）
- * 場所：ブリティッシュヒルズ（天栄村）
- * 対象：2年生16名

* Survival English：Pre-Intermediate

研修に向けた最高のウォーミングアップとして、ゲームやアクティビティを通じて滞在中に役立つフレーズを学ぶ。

* British Hills Experience

海外滞在中に起こりうる様々なトラブルを解決するための表現を学ぶ。

* Fun with Directions： Pre-Intermediate Experiences

日本を訪れた外国人に対し、英語での方角の示し方など道案内の表現を学び、おもてなしができるようにする。

* Table manners Lesson in Japanese

日本語による英国式テーブルマナーを学ぶ。



授業の様子



テーブルマナーの様子



児童・生徒の声

- 英語が苦手だったけど、みんなで協力して楽しむことができました。
- 外国の方との会話が楽しかったです。
- みんなで英語を楽しく学ぶことができ、外国への興味がわきました。



教職員の声

- 英語研修を通して、生きた英語を実践的に学習させることができました。
- 外国人による授業により、異文化や国際理解を深めさせることができました。
- 公共の場での体験を通して、公衆道徳について考えさせることができました。

広野町立広野小学校

取 組 内 容

- 特別支援教育の充実(支援員配置)令和4年4月～令和5年2月

代表的な 取組の ご紹介

特別支援学級に支援員を加配し、学級担任の指導方針に基づく児童への支援を行うとともに、学級担任を含めた教職員に児童の個性や適する支援内容の伝達を行うことにより、学校全体で個の発達段階や個性に応じた特別支援教育を展開している。

＊ 場所：広野小学校

＊ 対象：情緒学級児童6名



児童・生徒の声

- 一人だと不安の多い交流授業も支援員さんがいることで安心して参加できた。
- 環境の変化に適応するのに時間がかかる子たちなので、長期的に同じ方にみていただけると安心である。(保護者)

教職員の声

- 注意力が散漫であったり、身体的に不自由な子どもたちもいる中、子どもたちに寄り添い、その都度適切なサポートをしていただけるのはありがたい。
- 支援員さんがいることで、子どもたちは安心して学校生活を送ることができる。担任が見ていない時間の様子も関係者間で詳しく情報を共有することができ、子どもの実態把握にもつながり、支援方法の改善につなぐことができています。

広野町立広野中学校

取 組 内 容

- 国際理解・国際交流活動(グローバル・デイ事業)

代表的な 取組の ご紹介

＊東日本国際大学の留学生との交流を通して、グローバル人材の要素や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図っている。さまざまな教科の授業において、留学生の出身国に関する文化を学ぶだけでなく、日本や自分自身について留学生に紹介することで、課題発見・解決能力などのような要素を育成している。(5～9月はコロナ感染症拡大防止のため中止、10/25・11/21・12/20実施)

＊ 10月25日(火)

4校時・国語(1年生)では書道の体験を行った。生徒が留学生に筆の持ち方や書き順などを伝えたり、名前を漢字で書いたりした。留学生からは好きな母国語や日本語の表現について話を聞いた。



書道の授業

＊ 12月20日(火)

5校時・家庭科(2年生)では民族衣装の紹介・マイコーディネートを紹介を行った。生徒一人ひとりが日本の伝統文様やファッションについて発表し、留学生からはモンゴルやインドの民族衣装について発表を聞いた。



民族衣装についての話



10/25(火)英語 留学生とすごろくトーク



11/21(月)数学 相似な図形の公式の活用

児童・生徒の声

- 今まで他の国の人と関わることが少なかったですが、グローバル・デイでの交流を通して、日本以外の国の文化を知ることができて良かったです。
- 数学の課題で相似な図形の比の法則を用いて校舎の高さを測りました。活動中に、留学生と会話したり、留学生の出身国のこと・世界のこと・面白いことを聞いたりしました。楽しく学ぶことができました。
- ソーラン節を披露したときは、少し緊張しましたが、留学生にほめてもらい、喜んでもらえて嬉しかったです。
- 海外のことをもっと知りたいと思ったし、自分の住んでいる場所と海外を比較して、いいところや課題を見つけたいと思いました。

教職員の声

- 留学生との交流を通して、生徒はさまざまな文化を学んで驚いたり、知っている英語を使って「どう伝えればいいのか」と試行錯誤したりする姿が見られました。また、留学生に日本の文化を伝える活動を通して、異文化と比較したことで、日本の良さに改めて気づき、その良さを広めたいという意欲が高まりました。生徒にとって真正で深い学びになっていると思います。



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1314
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

避難地域 1 2 市町村における 少人数教育に対応した教授法に関する教員研修

- 日 時：令和 4 年 9 月 2 7 日（火）9:45～16:00
- 会 場：浪江町立なみえ創成小学校・なみえ創成中学校（一部オンライン配信）
- 参加者：小・中、義務教育学校の教員、市町村教育委員会指導主事等 合計 88 名
- 内 容：①震災遺構浪江町立請戸小学校の見学
②公開授業参観
③講演「少人数教育の魅力とは」北海道教育大学釧路校 教授 川前あゆみ様
④ラウンドテーブル「少人数教育におけるカリキュラム及び指導の工夫」について

【研修のまとめ】

【被災地域理解について】

- 避難地域 12 市町村の被災以降のあゆみはそれぞれ違いがあります。今年度は震災遺構浪江町立請戸小学校の見学を通して、浪江町の被災以降のあゆみを理解していただきました。被災地域の学校で学ぶ子どもたちの豊かな学びを築くうえで被災地域の理解は欠かせません。

【公開授業】

- 小学校第 2 学年 図画工作「ともだち 見つけた！」末永佳子教諭
- 小学校第 3・4 学年 総合的な学習の時間「これからの浪江町の防災を考えよう」
稲垣みゆき教諭、後藤かおり教諭、佐藤信一教諭
- 小学校第 6 学年 国語科「みんなで楽しく過ごすために」
鈴木孝成教諭、永山和弥教諭【葛尾小学校】（遠隔合同授業）
- 中学校第 3 学年 数学科「関数 $y=ax^2$ 」西坂勇輝教諭

【講演のポイント】

- 少人数教育における個別最適な学び ○ パラダイム転換 ○ 少人数教育におけるカリキュラム

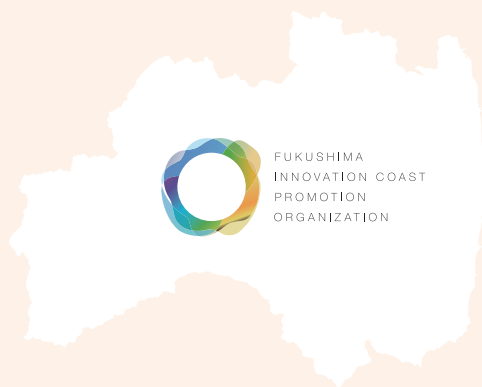
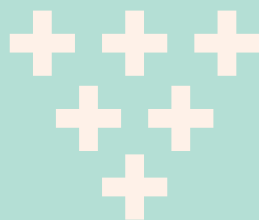
【ラウンドテーブル】

- 2 年ぶりの参集型の研修実施により、参加者一人一人が感じている課題や取り組みの成果について熱く語ることができました。なみえ創成小・中学校の取り組み発表が協議の呼び水となりました。

【今後取り組みたいこと】～研修者より～

- なみえ創成小中学校の授業を参観させていただいたこと、講演の内容等から、カリキュラムの工夫を目指し、教員の意識改革が必要だと思いました。
- 研修内容に流れがあり、避難地域だからこそできること、していかなければならないことに気づくことができました。少人数教育をプラスとして考えることができました。
- 個に応じた指導の充実、言語活動の充実、可視化の工夫に取り組みたいです。
- 請戸小学校被災のことは話に聞いていましたが、実際に訪れてみてこそ当時の津波の恐ろしさを認識できると感じました。





FUKUSHIMA
INNOVATION COAST
PROMOTION
ORGANIZATION

公益財団法人

福島イノベーション・コースト構想推進機構

2023年3月00日発行

<https://www.fipo.or.jp/>

〒960-8043 福島県福島市中町1番19号 中町ビル6階

TEL: 024-581-6897 FAX: 024-581-6898

本実践事例集は、文部科学省の「福島県教育復興推進事業」（避難地域 12 市町村における小中学校教育等推進事業）により作成しました。